

6 増上寺

明徳4年(1393)、聖聡(しょうそう)上人によって開基された。当初は平河町から麴町にかけての土地であったが、慶長3年(1598)に現在の芝に移転した。江戸幕府の成立以降は、家康の手厚い保護もあり、寺運は隆盛へと向かっていった。徳川家の菩提寺として選ばれ、2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6人の将軍の墓所がある。



7 高輪大木戸跡

江戸の町は要所ごとに木戸が設けられていた。二間(3.6m)の柱の間に両開きの扉をつけ、木戸番小屋が設けられた。犯罪人の監視など治安維持が目的で、夜間は検問があった。大きいものを大木戸といい、高輪や甲州街道の四谷・板橋は取り壊されたが、高輪大木戸は一部(片側の石垣)のこっている。



10 品川神社

創建は文治3年(1187)。源頼朝が、安房国(千葉県)の州崎明神を勧請して建立したと伝えられている。江戸時代は北品川宿の鎮守であった。神社の裏には板垣退助夫妻の墓がある。国道に面した場所に「お富士さん」と呼ばれる、高さ6メートルの富士山を模した品川富士があり、毎年7月1日に山開きが行われる。



5 江戸歌舞伎発祥之地碑

寛永元年(1624)、中村勘三郎はこの地で常設の芝居小屋・猿若座(後の中村座)を旗揚げし、最初の江戸歌舞伎を興行した。これを記念して昭和32年(1957)、江戸歌舞伎旧史保存会が建設した石碑。碑の奥には「京橋大根河岸青物市場跡碑」もある。

11 御殿山下台場跡

嘉永6年(1853)、ペリー艦隊来航を契機に、幕府は品川沖に11ヶ所の台場(砲台)を造る計画を立てた。しかし、翌年の安政元年(1854)に第1~第3台場、御殿山下台場が完成したところで工事は中止となった。現在、台場小学校があるあたりが御殿山下台場跡であり、計画された台場のうちで唯一の陸続きであった。校庭に、台場の石垣の石でできた碑が建てられている。

